

社外アドバイザーからの 意見を参考にしながら 報告事項を検討・選定しました



Step 1

昨今の
社会的要請や
社会が抱える
問題について
検討しました

- 経済・環境・社会の調和
- 個人の自立・人間性尊重
- ダイバーシティ
- ワークライフバランス
- 企業不祥事・偽装問題
- 製品・施設の事故
- 不当取引
- 製品・食品の品質・安全
- 製品・施設などのユニバーサルデザイン
- 食料自給率
- 資源の枯渇
- 資源・エネルギーの循環利用
- 地球温暖化
- 生態系保全・生物多様性維持
- 大気・水質・土壌・地下水汚染
- 強制労働・児童労働
- 海外事業所の現地化
- 雇用創出
- 雇用の公正性
- 同一価値労働同一賃金
- 過重労働
- 労働安全衛生
- 社会保障制度
- 人材育成・訓練
- 高齢者雇用問題
- コミュニティの希薄化
- 地域文化保全・尊重
- 地域経済開発
- 情報公開
- 情報セキュリティ
- 個人情報保護

※順不同



さまざまなステークホルダーの関心に応えるレポートをつくるために、2009年度は報告事項の検討段階から、2008年度のレポートで「第三者意見」をいただいた3名の方（→P15）に社外アドバイザーとして参画していただきました。社外アドバイザーのご意見をうかがいながら、次に示す3つのステップを通じて、報告事項を検討・選定しました。

Step 1

まず、GRIガイドライン第3版、ISO26000ドラフト案や環境省の環境報告書ガイドライン、SRI調査項目などを参考にして、昨今の社会的要請や社会が抱える問題を検討しました。政府・企業・個人がそれぞれに、または連携して対応・解決していくべき事柄のうち、特に企業に帰すべきものと企業が解決などに貢献できるものを、社外アドバイザーの助言をもとに上図のように抽出しました。



Step 2

セブン&アイグループが 取り組むべき 重要な課題を 選定しました



- 内部統制強化
- コンプライアンスの浸透
- 企業倫理の確立
- CSRマネジメントの強化
- 公正取引の推進
- CSR調達の推進



- 環境負荷の適切な把握
- 廃棄物の削減と循環型社会の構築
- エネルギー効率の向上と再生可能エネルギーの導入
- 生物多様性への対応
- 環境に配慮した商品の提供
- 従業員の環境意識啓発



- 商品・サービスの品質・安全性の確保
- 安心して利用できる店舗・設備の整備
- ユニバーサルデザインの導入
- 適切な情報提供
- お客様の声への誠実な対応

- 育児・高齢者支援
- 地域活性化への協力
- 災害時の支援
- 地域防犯対策



- 社員の能力向上
- 公正な評価・処遇
- ワークライフバランスの実現
- 多様な人材の活用

Step 2

次に、Step1で抽出したことをもとに、セブン&アイHLDGS.にとって特に重要と考える課題を洗い出しました。その過程では、セブン&アイHLDGS.と各事業会社の事業特性をふまえて、当社グループが取り組むべき課題、さらに事業などを通じて社会的問題の解決に貢献できる取り組みとは何かという視点から優先順位をつけました。

これに社外アドバイザーからのご意見を加味して、重要と考える取り組み課題を上図のように整理・分類しました。

社外アドバイザーからいただいたご意見と対応の例

ご意見 多くの食材を輸入に頼る日本で、食品の調達・製造過程で不正や多大な環境負荷がないかは消費者の関心事である。

対応 取引先と連携したCSR調達の必要性を再認識しました。

ご意見 CO₂排出量削減策として、省エネルギーだけでなく、いわゆるグリーン電力など再生可能エネルギーの活用も重要である。

対応 「エネルギー効率の向上」とは別に「再生可能エネルギーの導入」を重要な課題として選定しました。

報告事項の検討プロセスについて

<p>特性①</p> <p>お取引先数</p> <p>約20,000社</p> <p>※国内事業会社の直接取引社数(2009年8月末現在)</p> <p>約20,000社にのぼるお取引先と連携・協力しています</p>	<p>特性②</p> <p>店舗数とCO₂排出量の推移</p> <p>2006 2008 (年度)</p> <p>※2006年度を100とする指数</p> <p>環境負荷増大を抑えながら出店を続けることが重要です</p>	<p>特性③</p> <p>出店先都道府県数</p> <p>約13,800店 43都道府県</p> <p>※2009年2月末現在</p> <p>出店地域に根ざした商品・サービスを展開しています</p>	<p>特性④</p> <p>国内主要事業会社のパートタイマー比率</p> <p>約70%</p> <p>※2009年2月末現在</p> <p>従業員の約7割がパートタイマー多様な働き方を支援しています</p>
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------

Step 3

課題ごとの構成とし、記載項目を重要性の高い活動に絞ったレポートにしました

内容	
<p>サプライチェーンにおけるCSR →P16</p>	<p>多種多様な多くのお取引先を持つ特性①セブン&アイHLDGS.は、公正な取引引きを徹底するとともに、お取引先と連携して、安全・安心な商品を提供する責任があります。サプライチェーン全体におけるCSR推進について特集しました。</p>
<p>企業統治・CSRマネジメントの強化 →P20</p>	<p>持株会社の責任を果たすための取り組みとして、セブン&アイHLDGS.を中心としたグループのガバナンスおよびコンプライアンスの体制と、委員会組織によるCSRマネジメント体制について報告しています。</p>
<p>環境負荷の低減 →P24</p>	<p>事業活動の発展特性②に比例して、環境負荷が増大しないように管理していく責任があります。事業活動にともなう環境負荷の適切な把握と、その低減に向けた事業会社の主な取り組みを報告しています。</p>
<p>安全・安心な商品・サービスの提供 →P36</p>	<p>製品事故・偽装事件が多発する中で、お客様の毎日の生活に密着した商品を提供する小売業として、基本的な品質・安全性の確保、適切かつ誠実なサービス・情報提供などに関する取り組みを報告しています。</p>
<p>地域社会との共生 →P48</p>	<p>全国各地で地域に密着した事業特性③を営んでいる当社グループにとって、コミュニティの希薄化・少子化・高齢化などの地域の抱える問題解決への貢献も重要な役割です。地域活性化への協力を目指す取り組みなどを報告しています。</p>
<p>働きがいのある職場づくり →P60</p>	<p>パートタイマーを多く雇用している特性④企業グループとして、多様な働き方のできる、また働きがいのある職場づくりは重要なテーマです。人事制度の整備・拡充や従業員の能力向上支援などについて報告しています。</p>

Step 3

こうした整理・分類結果に即して本レポートの章構成を決定しました(上図参照)。また報告する項目は、各課題に関する取り組みのうち、特に社会的関心が高く、重要性(マテリアリティ)が高いものに絞りました。

社外アドバイザーからいただいたご意見と対応の例

ご意見 商品の安全と、トレーサビリティやサプライチェーンでの環境配慮を関連づけて報告するとわかりやすい。

対応 小売業の大きな課題「サプライチェーンにおけるCSR」について、特集としてまとめました。

ご意見 各テーマに関する各社の取り組み状況が明確になるように、一覧表を設けて成果と課題を自己評価すると良い。

対応 「環境負荷の低減」「安全・安心な商品・サービスの提供」「地域社会との共生」「働きがいのある職場づくり」については、冒頭のページに主要事業会社の主な取り組み状況の一覧表を記載しました。

ご意見 持株会社と各事業会社の責任区分を明確にすべき。

対応 「企業統治・CSRマネジメントの強化」の章を設けて、グループを統括するセブン&アイHLDGS.の取り組み状況を報告しました。

レポート全体やCSRへの取り組みに対して社外アドバイザーからいただいた主なご意見

辰巳菊子様からのご意見

(社)日本消費生活アドバイザー・コンサルタント協会 常任理事 環境委員長

「自らの取り組みだけでなく、
取り組みに対するお客様の評価なども報告書に盛り込んだほうが良い。」

「安心」は消費者にとって、自分の健康が安心だけでなく、
商品の調達・製造過程などで「悪いことに加担しない」という安心などもある。
フェアトレード商品は、そうした問題への一つの取り組み手段になると思う。」

「各社共通の取り組みは、まとめたほうが読みやすい。」



河口真理子様からのご意見

(株)大和総研 経営戦略研究所 経営戦略研究部長

「実行できていないことも、課題として整理する必要がある。」

「各社の活動事例を報告するだけでなく、グループとして
今後取り組みを広げていくなどの方針・戦略も報告すべき。」

「地域社会との共生に関しては、今後、流通・小売業とは異なる
セブン銀行の取り組みを報告していくことも検討してもらいたい。」



緑川芳樹様からのご意見

バリエーション研究会 共同議長グリーンコンシューマー研究会 代表

「CSRは企業が社会問題を起こさず
社会的課題を解決することが基本であると考えられる。
社会の課題をベースに自社の課題を抽出するという発想は高く評価できる。
しかし社会的課題の採り上げ方はまだ十分ではなく、
今後の改善も必要である。」

「報告書全体を通して、中長期的な考え方に関する記載が薄い。
年度の目標、実績、自己評価、今後の目標をまとめたCSR総括表の記載が望まれる。」



ご意見を受けて

上記のご意見を受けて、そのいくつかを本レポートの改善に活かしました。

- 取り組みに対する社外の評価の例として、関係するステークホルダーからご意見・ご要望をうかがい、記載しました(→P67)。
- 事業の全体像と特徴をご理解いただくために、主要事業会社の概要を一覧できるページを設けました(→P8-11)。

「一方、CSRについてのグループ全体の中長期的な目標の明確化や達成までの具体的なプロセスなど、不十分な点は今後の課題として改めて認識しました。一部事業会社における先進的な取り組みは、グループ全体で共有し、さらに発展させるとともに、取り組みが遅れている部分については、具体的施策を検討することで、セブン&アイHLDGS.全体のCSR活動を一層深化させていきます。」